

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.154 2008.1.1



1月2日は博物館へ行こう!
〔開館時間〕午前10時～午後3時

松本市立博物館を無料開館します。新春コーナー展示のほか、当日は新春にちなんだ特製福袋やあめ市ピンバッヂ、友の会による縁起物を販売します。
〔関連行事〕1月14日(月)まゆ玉サービスを実施します。

もくじ

誌上博物館◇城山の言い伝え～データーボッチ～	2-5
松本市立幼稚園誕生——設立120周年を記念して	6-7
博物館博物館ノート◇博物館のサポーター達1	8
ガイドコーナーはんてんぼく	8



城山の言い伝え～デーラボッヂ～

1 はじめに

山と自然博物館がある城山丘陵は松本市街の北西にあり、安曇野市の光城山から南に連なる標高約800mの山々が連なる丘陵です。

『松本市史下巻』では「犬養山」として市外(昭和8年当時)の名所として紹介されています。この丘陵は古くから城下町の人にとっては身近な行楽地として親しまれ、また、近隣の人々はこの山を身近な里山として畑や燃料の調達先として利用していました。この場所にはいくつもの言い伝えがあります。

ここでは山と自然博物館1階展示室で大きな像を作って紹介している。城山にある言い伝えの一つ、「デーラボッヂ」を通して昔の人々がどのように自然現象をとらえたのかを考えみたいと思います。



城山丘陵

2 デーラボッヂとは

デーラボッヂは松本周辺では、ディラボッヂャ、デラボッヂャなどの名前でよばれています。この言い伝えは日本各地に広く伝わる巨人の言い伝えの一つで、ダイタラボッヂ、ダイタホウシ、ダイタホウシ、デーランボーなど様々な名前がついています。また、言い伝えの場所には、足の窪や大羅法師など地名として残っています。

3 松本のデーラボッヂの言い伝えの概要

大昔、この国土が創造されたとき、デーラボッヂという巨人がいて所々を巡り歩いて地形の格好をおおしていました。高山の不格好なところの土をたくさん削り取り、その土を遠くの湿気が多くて役に立たない場所へ運んで埋め立てをしました。



アルプス公園から見た中山丘陵

土は背負子に背負って西山から東山へ一またぎに越していましたが、この時にショイコからこぼれ落ちた土で安曇野市三郷の背負山・現正の山や寿地区の赤木山ができ、また、履物から落ちた土でできたのが、中山丘陵だと言われています。彼はさらに東に北に南に往来して足跡を残しました。城山の足の窪、三才山の芦の田池・現美鈴湖などがその足跡だと言われています。

アルプス公園と島内山田地区の足跡はデーラボッヂの歩幅ともいわれ、山田の足跡は右足で、つま先が西側、かかとが東側とされていました。

造った山や足跡の他には、お手玉がわりの石といわれる中山地区のかんぴら石、火打石またはデーラボッヂが西から東へ移動するときに踏んだ石といわれている梓川地区の火打岩があります。

彼は昼間歩くと人々の迷惑になるのでもっぱら夜だけ動いたといいます。優しい性格で盆栽づくりが大好きだったそうです。



梓川岩岡の火打岩

4 城山丘陵の3つの足跡

大正4年の『郷土研究第三卷』に「大太法師の足跡」胡桃沢勘内があり、城山丘陵の3カ所の足跡について記述されています。以下に概要を紹介してみましょう。

[1] アルプス公園の足跡

この足跡は博物館横の広場にあります。大正時代の記述では「アカマツ林の中にあり、池にはカヤツリグサ科の植物が生えている。その周囲の山林の小字は大羅法師となっている。」とあります。また、昭和53年松本市作成の『小字境図』にはアルプス公園管理事務所の西側の小山に「大羅法師」という小字が記載されています。

この足跡は丘陵で唯一現在も形をとどめる池ですが、県営の種畜牧場として開発され、その後公園として整備されていますので、当初の姿とは若干かわっています。ただし、今も周囲にアカマツが、池の中にはイグサ科やカヤツリグサ科の



アルプス公園にある足跡の池



かつて山田地区の足跡があったところ

植物がありますので大正時代の当時の雰囲気は残っているともいえます。池の畔には言い伝えに関する案内看板があります。

[2] 山田地区の足跡

島内山田地区の「でらぼっちゃん」の足跡は、大正時代の記述では「クヌギ林の比較的高地であるにもかかわらず常に水が湧いていて、日照りがあっても水が涸れる事がない」とあります。

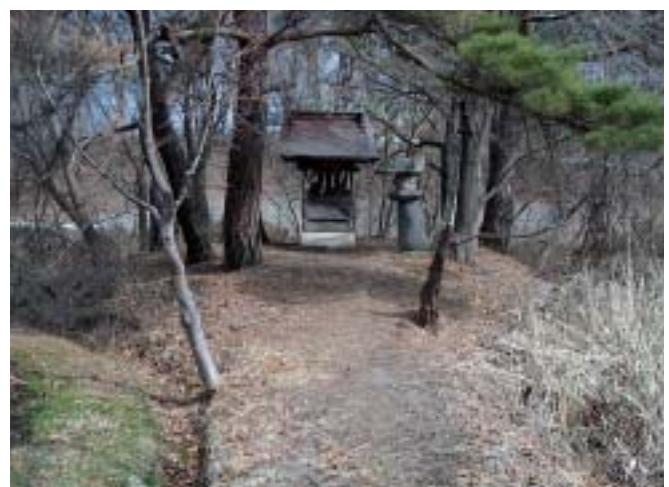
この池は丘陵の中では最も知られていましたが、松本市山田不燃物処理場の建設の過程で地形の変更によりなくなってしまいました。現在はゴルフ場へ続く道沿いにかつて附近にそのような池があったという内容の看板を残すのみとなっています。

[3] 放光寺地区の足跡

この足跡は現在確かめる術がありません。大正時代、既に「城山公園の附近にもディラボッチャの足跡があったとの言い伝えがあるが、現在はよくわからない。」となっています。

ただし、前記の二例に近い場所として、放光寺地区の弁財天を祀ってある場所があげられます。

ここは昔、蓮池といわれた池で、享保初年(1716年頃)、松本藩主の水野忠周によって作られたものです。平成16年松本市教育委員会作成の『松本城下街図』に記載されている公団情報によると一辺70~80m程の池があったことがわかります。また池を掘った時出た土で東側の小山(山王山)が築かれたとされています。この時点で本来の地形は失われたことになりますが、資料の記述では元々池があったのかはわかりません。また、この池はため池としても使われていました。



放光寺地区の弁財天を祀る祠

現在蓮池は埋められていますが、祠の周囲では今も水がしみ出でていて小さい水たまりになっています。ここにも、もともと小さい池があったとすると、この場所が最も足跡の言い伝えの場所として可能性が高い場所と思われます。そのような事例としては芦ノ田池・現美鈴湖をため池として改修した例があります。

5 その他の足跡

現在の美鈴湖はかつて芦ノ田池という足跡の池と言われていました。この池も雨水を貯めた貯水池でしたが、日照りでも水が涸れることはませんでした。またこの池にはヌシがいるといわれ、長雨の時はこの池が決壊するのを下流の人々が恐れたそうです。

中山丘陵の一角、弘法山古墳の南側にもかつて雨池とよばれる池があり、この池も足跡と言われていました。現在その池はなくなっています。ここは昭和の初めまでは水がしみ出でていて、その水を飲むこともできたそうです。

6 展示のなかのデータボッチ

1階常設展示室にひときわ目を引く像があります。これは、データボッチをイメージしたものです。森の精ということで、座った形が緑の小山にも見えますが、これは昼間動くと迷惑になるから夜だけ動く=昼間は山になっている。というものです。昔話に出て来るデータボッチは姿形について巨人である事以外はわかりません。この形はまず展示製作に関わるデザイナーから7つの案を出してもらいました。後で出て来る



展示室のデータボッチ像

「室山のディラボッチャ」にも近い案がありました。平成18年度の子どもまつりの会場で、親子に投票をお願いして現在の形が3分の2を獲得したため、決定しました。顔は縄文時代中期の土偶を参考しています。現代の人がイメージした一例



室山アグリパークの展望台

という事でよいと思います。データボッチの名は『松本市史下巻』で使われている名前を採用しています。

7 室山のディラボッチャ

近隣で最近データボッチを具現させたものとして、安曇野市室山のディラボッチャを思い浮かべる方もいると思います。この山もデータボッチャが土を置いた場所といわれているところです。こちらの「でいらぼっち」は男性の原始人のような風貌で頭の上が展望台になっています。イメージとしてはこちらのほうが素直だと思います。

8 この言い伝えの意味

全国的にみるとデータボッチは富士山(3776m)を造るため、琵琶湖を掘るという非常に大きな仕事もしています。このことからイザナギ、イザナミの国生み伝説と関わりがあるとされています。県内でも八ヶ岳(2,899m)や戸隠山(1904m)という標高の高い山が言い伝えに登場します。

松本市周辺の場合、言い伝えの場所が人里近くの日常生活で訪れるところに点在しています。このことは松本ではデータボッチは身近な存在として認知されていたことがうかがえます。

城山丘陵の3カ所の足跡はいずれも高地の小さい池にも関わらず日照りでも水が涸れない不思議な水源です。この不思議を説明するため、人力では遠く及ばない力を持つ

デーラボッチの仕業として自然に対する畏敬の念を表現しています。

丘陵にはこれらその他、水がしみ出している所が何か所もあります。そのような場所には簡易水道の施設が設置されていますが、水は利用していなくてもお寺や砦があったという言い伝えだけがある所もあります。

昔の人は言い伝えを使って、その場所は人が住めるまたは利用できる場所だということをさりげなく教えてくれています。デーラボッチの水源はその中で優良なものとなると思います。

9 消えかかる言い伝え

山と自然博物館の整備をはじめた頃、放光寺の足跡は大正時代、既に所在不明。山田地区の足跡も松本市山田不燃物処理場設置のため消滅し、アルプス公園の池を残すのみとなっていました。この言い伝えも池の畔にある説明看板を読んでようやくわかる程度です。

私もその看板の存在は気がつきましたが、山田地区のものしか記憶になかったため、俄に信じる事ができませんでした。後に近代の民俗関係の文献を調べてその言い伝えの

存在が確認できました。おそらく公園を訪れる人もほとんどその存在に気づくことはなかったと思います。

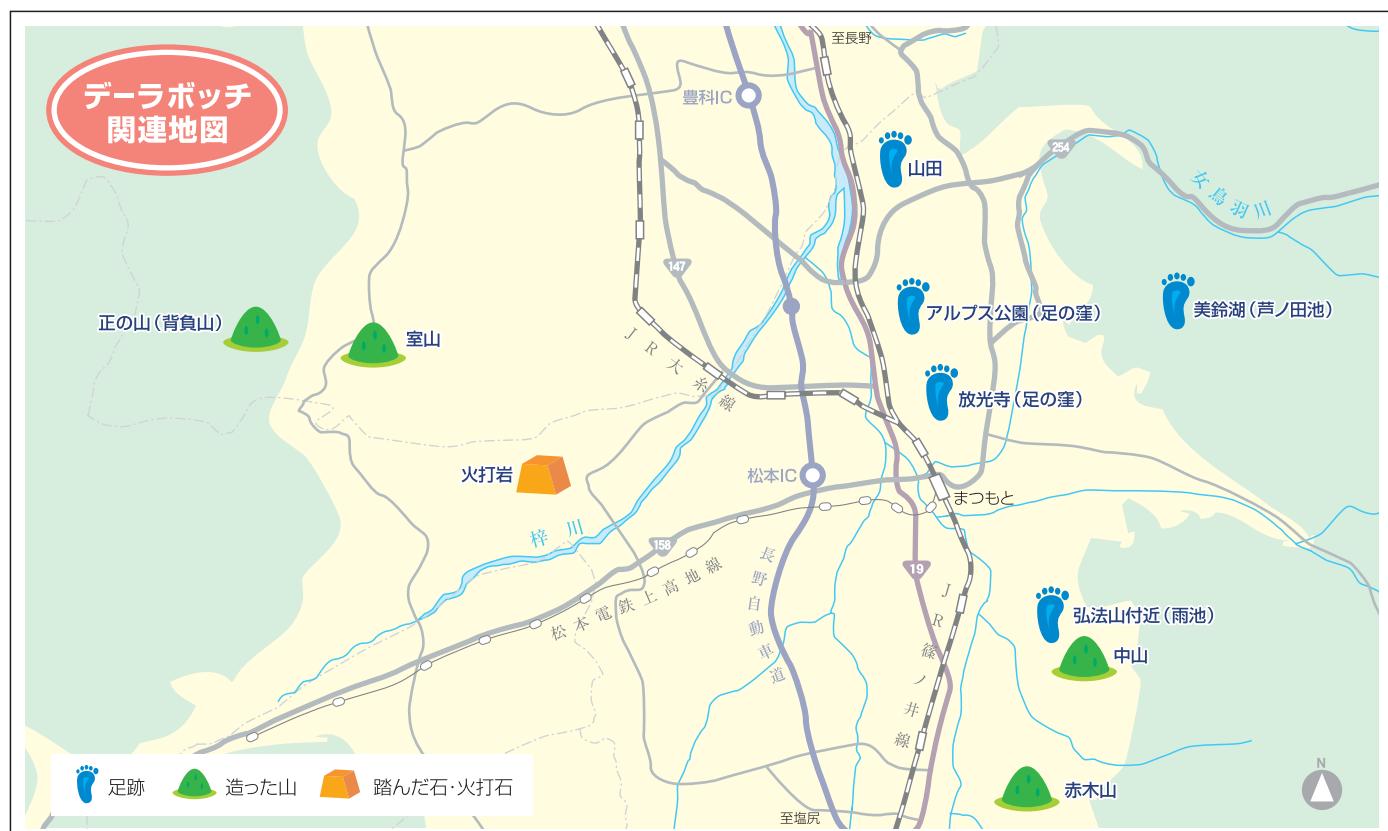
展示の中でデーラボッチを扱ったのは、博物館として消えかかっている当地の言い伝えの情報を残すという意味がありました。開館後、その言い伝えを覚えていた昔アルプス公園附近に住んでいたという二人の老人の話を聞く事ができました。昭和の初め頃その池が「デーラボッチ足跡」だと島内地区から嫁に来た母親が教えてくれたこと、また池にはフナがいて、食糧難の時には食糧の足しにしていたものでした。

人と自然とのつながりを展示や活動の軸としている当館では「言い伝え」について、昔の人が身近な自然現象をどのようにとらえていたかという切り口で扱っていきたいと考えています。

(山と自然博物館 学芸員／小原 稔)

参考文献

『松本市史下巻』	松本市	1933年
『長野県史 民俗編第三巻』	長野県	1990年
『郷土研究第三巻』	東京郷土研究社	1915年
『紀要第8集』	塩尻市立博物館	1991年
『出川史』	出川史跡研究会	1999年
『島内小学校之百年』	島内小学校之百年誌編集委員会	1986年



松本市立松本幼稚園設立のころ —開園120周年に寄せて—

はじめに

松本市立松本幼稚園は開智学校内に設立され、昨年、平成19年(2007)4月に開園120周年を迎えました。これほど歴史ある幼稚園は長野県内に他にありません。園舎には毎日子どもたちの歓声が響き渡り、たいへん楽しそうです。松本幼稚園はどのようにしてできたのでしょうか。設立当時のことを紐解いてみます。

1 幼稚園のはじまり



第一恩物

そもそも幼稚園とはどのような考えから始まったのでしょうか。世界で初めての幼稚園は1840年ドイツのフレーベルによってつくられたといわれています。フレーベルは子どもの勉強とは、玩具や遊具等で自分の考えていることを表現したり、想像していることを形あるものに作り出したりすることであり、教育的な遊具を与えることが大切だと考えました。そこで考案されたのが「恩物」という遊具です。恩物は1から20まで作られ、当時の幼児教育のほとんどが恩物にあてられました。そして、親や保育士や教師は庭師のように子どもたちを世話し育てなければいけないという意味から1837年に設立した施設をキンダーガルテン(kindergarten)=幼稚園と名づけました。

このフレーベルの幼稚園を模した日本初の幼稚園は、明治9年(1876)に開園した東京女子師範学校附属幼稚園です。明治5年の「学制」に幼稚小学の記載はありましたが、現実にこのような学校はありませんでした。全国各地で幼稚園が設立され始めたのをおいかけるように、明治12年、13年の

教育令において、文部省は公立幼稚園の設置について規定をしました。幼稚園法が定められるのは大正15年ですが、明治中頃から幼稚園が教育機関として認識されてきたことがわかります。

2 東筑摩郡教育会の動き

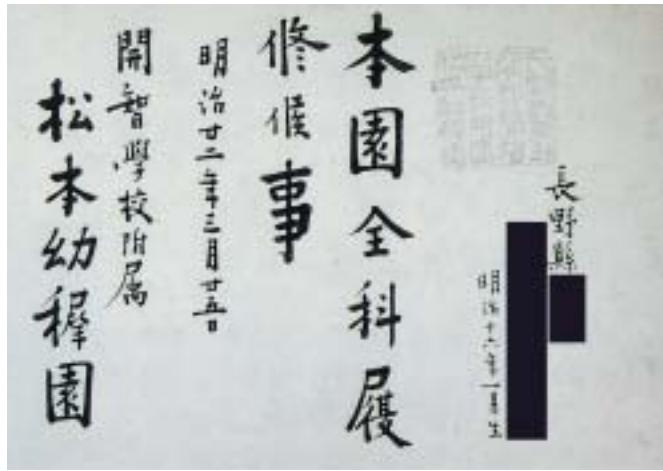
この頃、松本では師範学校長能勢榮が開発主義教授を中心とした新教育を導入していました。ただ暗記させる教育ではなく、子どもたちが自分で考えて活動するように促し、学習した知識を簡単かつ確実に覚え、活用するように説いていました。このような中で、明治17年頃から東筑摩郡教育会会长 鹽谷吟策らが、幼稚園に関する研究を始めます。様々な議論の末、幼稚園とは幼児の持つ生まれた自然に育つ力を発達させ、遊びを通して体と心を育て個人と集団にかかる性質を育てる場所であるとされました。教育会会員が幼児教育について論じながら「幼稚園」の大切さを認識し始めたことがわかります。

3 松本幼稚園設立とその後の動き

開智学校では校長鹽谷吟策を中心に幼稚園設立の準備がすすめられ、明治20年3月、附属幼稚園設立伺いを提出しました。そして同年4月1日に開智学校内に松本幼稚園が開園し、当時の新聞でも大きく報道されました。明治20年の幼児数は定員100名のところ109名となっており、松本の人々の幼稚園に対する理解や期待を感じます。明治20年5月11日付の信濃毎日新聞には「幼稚園の設立を望む」という社説が掲載されました。その中で松本幼稚園が県下唯一の



松本幼稚園120周年記念(平成19年)



幼稚園であると紹介され、県庁所在地の長野町などでも設立されるべきだとしています。

明治23年頃から全国で幼稚園批判が始まりました。長野県師範学校附属小学校幼稚園は明治22年に県議会の反論を押し切って、県下のモデルとなるために設立されました。しかし特権階級化している、費用がかかりすぎる等の理由から明治27年3月には廃止されてしまいます。当時の新聞には幼稚園廃止を惜しむ長野町民の声が寄せられています。

松本幼稚園については、参考資料がないため松本町で幼稚園批判があったのかどうかはわかりません。しかし、全国的に幼稚園批判がおこり廃園する幼稚園もあった中で現存しているということは、それだけこの幼稚園の存在価値を住民が認めていたということだと思います。

明治25年、東京女子師範学校に送った「附属幼稚園概況取調べ」で、著しい結果はないが、多少保育の結果を考慮するしたら尋常科の生徒の成績を添付するので参考としてくださいと述べ、明治24年の尋常小学校の小試験の統計を提示しています。この報告書から、目に見えるような結果はすぐには現れていないが、子どもの中にその芽は必ず育っているに違いないという確かな自信を感じます。上辺だけでなく、誰になんと言われようと子どものために幼児教育をしているのだという関係者の内に秘めた強い意志を感じることができます。松本幼稚園が存続したのは、長野師範学校附属小学校幼稚園のように議会で議決されて開園したものではなく、現場の教員たちのあいだで研究され、考案され、設立したものという地域の中での積み上げがあったからだといえるのではないかでしょうか。明治21年4月の学校日誌には幼稚園を拡張するため授業料の値上げについて保護者を

集めて説明したところ、皆が賛成して帰ったとあります。松本町民の教育に対する情熱と寛容性も幼稚園存続に影響したのかもしれません。

おわりに

松本幼稚園の卒園生数は確定できませんが、関係資料によれば15,000人以上にのぼります。

現在、幼稚園は難しい局面を迎えており、幼保一元化も検討され、生き残りをかけて民間幼稚園では5時まで預かたり、字や英語や音楽を教えたりする園もあります。

松本幼稚園関係の資料には、たくさんの教材研究が残されています。フレーベルの恩物をただ取り入れるだけでなく、研究し開発したものを使っていました。幼児の教育をどうしたらいいのか、どうすべきなのか、常に大きな課題であったに違いありません。

明治期の幼児教育が幼い子どもにとって最善のものであったかはわかりません。今でも幼児教育は何が大切でどうしたら良いのか、試行錯誤が続いている。しかし、幼稚園設立と存続にかけた当時の人々の思いとその実践に現代の私たちも学ぶところが多いと思います。

(旧開智学校 学芸員／山村 里佳)

参考文献

「信濃毎日新聞」	1887～1894年
「松本幼稚園概観」	1901年
「松本市史下巻」	1933年
「復刻版東筑摩郡教育会雑誌全25巻」	1984年
「明治以降教育制度発達史1巻～4巻」	1964年
「学制百年史」	1972年
「長野県教育史1巻～14巻」	1975年
「松本市立松本幼稚園百年誌」	1987年
「史料開智学校第1巻」	1988年



片端町時代の松本幼稚園(大正7年)

博物館のサポーター達 1

博物館では市民学芸員など様々な形で博物館活動をサポートする人たちがいます。このコーナーはその人たちの声を掲載するものです。

一期一会

「一期一会」を意識したわけではないが、年甲斐もなく感動した出会いがあった。

7月の終わり頃、松本市立考古博物館恒例の「土器づくり講座」が開かれ、私は「俄かアシスタント」を務めることになった。私の作業台には、かわいらしい女の子がついた。聞けば幼稚園生だという。私は、専ら「励まし」を重視して、女の子との会話を努めた。「出来上がったら何に使うの? ジュースでも飲もうか。」根気のよいのにはビックリ。私のアドバイスにもチヨコンと頭を下げて謝意を表す。実に素直で現代っ子への認識を改める。

8月の炎天の日「野焼き」が行われた。当日、女の子の母親が私のところに来て、娘が『今日あのおじちゃんに会えるかな』と私との再会を楽しみにしていたことを告げられた。こみ上げる嬉しさがあった。

考古博物館では、他にも「火おこし器のメンテナンス」「勾玉づくりセット制作」などをサポート。春と秋、大勢の小学生が博物館を訪れて古代を体験する。きつい作業も、地域づくりに貢献できる張り合いがある。また、小学生との出会いが楽しみ。

これからも博物館を利用する人々と出会い、触れ合い、一片の満足感が得られるようサポートできたらと思う。一期一会を大切に。（市民学芸員／横山 英央）



火おこし器のメンテナンス作業

あとがき

新年あけましておめでとうございます。

平成15年から山と自然博物館整備の担当をしていましたが、この5月に開館とともに施設の日常の管理運営業務に仕事がかかりました。当館の目標である「市民とともにつくる博物館」はこれからが本番です。ご指導ご協力のほどよろしくお願いします。（M.O）

考古博物館から

☎0263-86-4710

八十二銀行ショーウィンドウパネル展 「わが町文化財」

重要文化財や県宝など、指定を受けた考古資料を写真で紹介します。

期 間 1月8日(火)まで

観覧料 無料

会 場 八十二銀行松本営業部ショーウィンドウ(大手3-1-1)

※合わせて、企画展「わが町文化財展」(会場:考古博物館)の期間を1月14日(月)まで延長して開催中です。

発掘された松本2007

期 間 2月15日(金)～2月22日(金)

※2月18日(月)は休館

午前9時～午後5時(最終日は正午まで)

観覧料 無料

会 場 時計博物館 3階企画展示室

歴史の里から

☎0263-47-4515

草木染め体験

日 時 ①2月2日(土)紫根(シコン)

②3月1日(土)紅花(ベニバナ)

午前10時～11時

受講料 1,000円

定 員 各10人

持ち物 染めたい布類1点(綿、麻、絹など)

歴史の里で購入もできます。

エプロン、ゴム手袋、ビニール袋(持ち帰り用)

空穂記念館から

☎0263-48-3440

平成19年度「冬日ざし」

日 程 2月2日(土)

内 容 上條 宏之氏「窪田空穂の自伝を読む⑥」

2月9日(土)

吉水 説肇氏「時はいま」(ビデオ鑑賞とチェロ演奏)

2月16日(土)

臼井 和恵氏「窪田空穂『食』の歌に学ぶ食育」

2月23日(土)

窪田 雅之氏「民俗資料としての空穂作品」

3月1日(土)

馬瀬 良雄氏「松本のことば」

計5回

時 間 午後1時30分～

資 料 代 各回100円

定 員 50人

会 場 空穂生家

申 込 1月15日(火)から

あなたと博物館 No.154

発行年月日／平成20年1月1日

編集・発行／松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL：<http://www.city.matsumoto.nagano.jp>

e-mail : mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社